

## 「インクルーシブな学校運営モデル事業」カリ・マネ便り⑮

カリキュラム・マネージャー

### 新たな「交流及び共同学習」を計画

年度内に中高養で、更農の生徒が参加する「交流及び共同学習」が実施されます。

参加生徒を決定する過程では、中高養から示された「受け入れ可能な教科や学習活動」をもとにした希望調査が行われ、美術科、音楽科において各4～5名が参加することになりました。

#### 〇2学年美術科(選択教科)

1 ねらい（授業目標は省略）

- 創作を通して、協働して学習することの喜びを知る。
- 互いに考えを聴きあったり伝え合ったりして、自然な会話を楽しむことができる。

2 日時 令和7年3月10日（月） 中高養5，6時間目

3 授業 主題名 雪に光の色をつけよう

#### 〇1学年音楽科(必修教科)

1 ねらい（授業目標は省略）

- 合唱や合奏の楽しさを味わいながら、協働して学習することの喜びを知る。
- 互いに考えを聴きあったり伝え合ったりして、自然な会話を楽しむことができる。

2 日時 令和7年3月13日（木） 中高養5，6時間目

3 授業 歌唱「with you smile」

器楽「リメンバー・ミー」のエンディングソング（カホンによる演奏）



### 大事なプリントは「推し」のファイルへ…整理・整頓

2月25日（月）、第5回「共に学ぶ会」が実施されました。

今回のテーマは「整理整頓ができず日常生活に影響がでている生徒の理解と対応」で、それぞれの学校の生徒を事例として取り上げ、次のような観点から該当する生徒の現状を共有しました。

1. どんな場面で散らかりやすいか？
2. 困っているのは誰？
3. 何がどんなふうに散らかっている？
4. 何に影響しているか？
5. 考えられる要因は？
6. 整理整頓の理想の形は？
7. いつ、誰が、どのように指示している？



更農の話合いの様子

「次回予定」三月二十一日（金）  
十五時四十五分～  
テーマ「苦手なことには初めから取り組もうとしない生徒の理解と対応」

ファイルが膨れ上がるほどプリントを挟み込む生徒の指導に、Snow Man の写真を貼ったファイルをつくり大事なプリントを区別させるアイデアや、中高養が週末に持ち帰らせることにしている「帰省袋」の活用などについて意見が交わされました。

※この便りは更農、中高養の教職員の方々に向けて作成しています。

「オンライン共同学習」授業アンケート結果（授業概要は「カリ・マネ便り⑭」に掲載）

更農												
生徒	合計	選択番号					授業を受けての感想					
1	-40	1	7	11	12	15	あまり思いつくものがなかった。					
2	80	2	4	6	8	10	グループで活動して色々なアイデアや考えを見いだすことができました。					
3	100	2	4	8	6	14	楽しかった。					
4	100	2	4	8	6	14	今回はアサーションを生かしてやるグループワークがとても楽しかったです。					
5		公欠										
6	-20	1	7	12	10	11	内容(考える)が難しく、考え辛かったです。					
7	100	2	4	6	8	14	普段とは違う授業でしんせんだった。					
8	60	2	4	6	8	11	おもしろかった。中高養さん優しい回答ですよかった。自分もそうしたい。					
9	20	2	7	4	5	11	交流授業ということできんちょうしたけど、しっかり考えをまとめることができた。					
10	40	2	4	8	12	15	自由に考えれた。					
11	100	2	4	6	8	14	今回の授業でグループワークをたくさん進めることができ、とても楽しかったです。					
12	40	2	4	14	15	1	日常にありがちな面白い話題だなと思いました。					
13	100	2	4	6	8	14						
14	60	2	4	8	11	14	はじめてのオンラインでとても楽しかった。					
15	60	2	4	5	7	8	オンラインでの授業の目的が少し気になる授業でした。					
16		公欠						注:上記生徒はモデル事業の一端であることを理解しておらず、純粋に「なぜ、中高養とオンラインで結ぶのだろう。」と思ったとのこと(翌日確認)				
17	100	2	4	6	8	14						
18	60	2	4	8	14	9	他の学校との関わりもあり、楽しかった。					
19	100	2	4	6	8	14	2人とも気分良く終わるのは難しいから、少しでも平等になれるようにしたいと思います。					
20	100	2	4	6	8	14	中高養ともっと交流してもよいと思いました。					
平均	64.4											

中高養												
1	40	2	6	10	14	15	よかった					
2	40	2	4	7	11	14	自分の立場と相手の立場を考えられる良い授業だったと思います。					
3	100	2	4	6	8	14	とてもたのしかったけど、あいてのせいとのかおや声がかきこえるようにしたい。せいとがわ、先生がわみえるようにしてもらいたい。					
平均	60											

【上の表の「合計」の算出方法と意味】

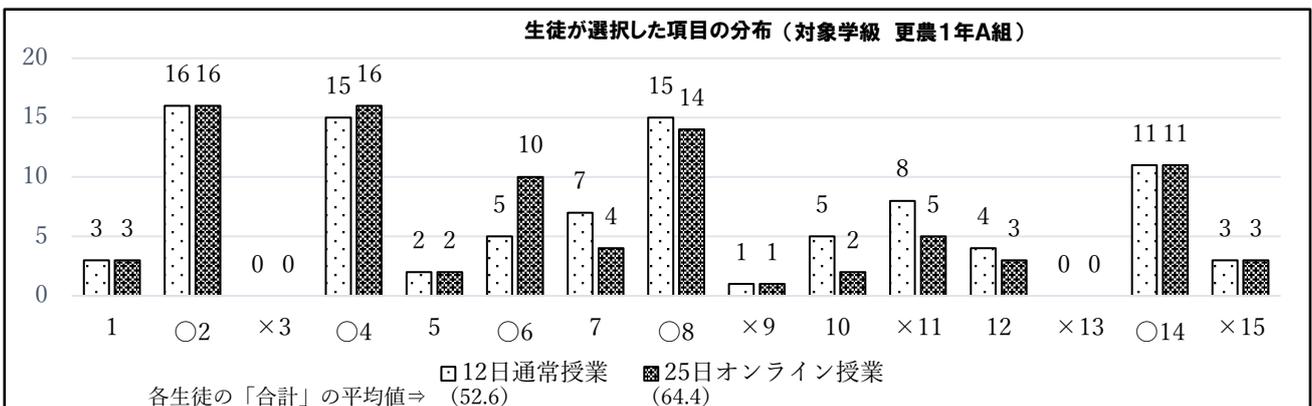
1. 授業後、生徒は右の15項目から「授業を受けた後の気持ちに似ている」と思うものを5つ選びます。
2. 選んだ5項目の「配点」を合計します。
3. 「合計」の最大値は100、最小値は-100になります。

これを開発した道教育大学附属釧路中学校（現、義務教育学校）は、得られた結果（合計）は「教科にかかわらず、授業によって学習者が学習一般または、その学習領域に対して内発的・即時的に動因づけられる程度を示している。」としています。

選択項目	配点
1. あまりよくわからなかった。	0
2. よく考えることができた。	20
3. ますます勉強がいやになった。	-20
4. 新しいことがわかってうれしかった。	20
5. かんたんすぎて、はり合いがなかった。	0
6. もっとこの授業がつけばよかった。	20
7. これという感じはのこっていない。	0
8. とても楽しかった。	20
9. 家で勉強した方がよくわかった。	-20
10. つらかったが、ためになったような気がする。	0
11. とても時間が長く感じられた。	-20
12. 思うように考えたり活動したりすることができなかった。	0
13. おさえつけられるような気持ちだった。	-20
14. 勉強のしがいがあるように思われた。	20
15. だらけた気持ちですごした。	-20

(生徒に「配点」があることは伝えません。)

出典：文部科学省委託事業「子どもの評価を媒介にした研修転移アセスメントシートの開発への挑戦」R6.3北海道教育大学（文部科学省 WEB ページ）



※この便りは更農、中高養の教職員の方々に向けて作成しています。